

倫理講義 6 イギリス経験論 ベーコン・ロック・ヒューム

満点の極意 経験論は、経験・実験・観察を重視する帰納法！

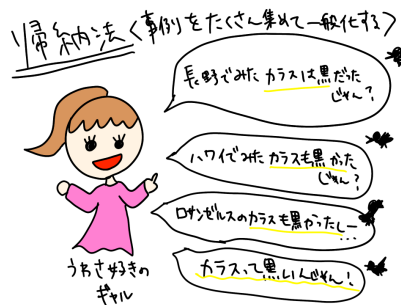
1 経験・実験・観察の重視



誰もが見たり、聞いたり、触れたりできる事物と五感が接触すること。

注意→イギリス経験論者は、経験を重視しているが、理性を否定しているわけではない。というのも、実験や観察を通じていろいろ経験したものを判断したり、新しい知識を手に入れるために働かせる能力は理性だから。

2 帰納法… 個別的・具体的な事実から客観的・普遍的な法則を導き出す。



生物 Xa の足は 3 本である。生物 Xb の足も 3 本である。

帰納:個々の経験的事実からそれらに共通する一般的な法則を求める

一般法則:生物 X の足は全て 3 本である(仮説・仮説)

演繹:一般法則から個々の結論を導き出す方法。生物 Xc の足も、生物 Xd の足も、3 本であろう。

満点の極意 ベーコンは「自然を服従することによって支配できる」と「知は力なり」、イドラ論の四つのイドラをしっかりと識別しよう！

1 「自然は服従することによって支配できる」

正しい知識を獲得し、理解すること。

2 「知は力なり」

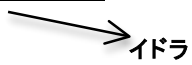
自然を理解すれば、自然法則がわかる。

自然法則を知れば、自然を支配する力となる。

しかし、人間は自然を正しく理解できない。

(理由) 心が歪んでから。

心の歪みとは、**偏見・先入観**のこと。



3 イドラ論

イドラとは偶像：人間は偏見や思い込みであるイドラを持っており、そのイドラを除去したのち、個々の事物や事例に直接当たり、実験や観察を行うことによって、正しい知識が

得られる。

2 **種族のイドラ**…人間が本来持っている精神や間隔の誤り。

例)「幽霊の正体見たり枯れ尾花」(思い違い)

3 **洞窟のイドラ**…個々の人間が資質や環境に応じて身につけた主観的な偏見

(洞窟に閉じ込められた人間が壁に映った自分の影を真の実在と見誤る) 例)「井の中の蛙」

4 **市場のイドラ**…人間どうしの交わりのなかで、ことばの不適当な使用から生じる偏見 例)「うわさばなし」

5 **劇場のイドラ**…権威を無批判に受容することによる偏見 例)中世ヨーロッパの天動説。テレビが言っていた。

帰納法

経験によって得た事実を総括し、それによって、これらの原理をつらぬく一般的原理・法則を導き出す方法。

満点の極意 ロックは、タブラ・ラサ(白紙)の観点からデカルトの生得観念批判をしたことを理解せよ！

1 **タブラ・ラサ(白紙)**…生まれただけの人間の心は白紙の状態にある。経験を積んで一つひとつ白紙に文字を刻み込むように知識を増やしていくこと→**経験論**

2 ロックは、デカルトの生得観念を批判。

著書は→『人間知性論』『統治論』

つまり、デカルトは神という観念が生得的に備わっているから宗教が成立するという。これに対して、ロックは宗教を持たない民族もいるので、神という観念は生得観念ではないと主張し、これを批判した。

満点の極意 ヒュームは、印象と観念の違い、快・不快の一致を共感に求める道徳論を理解しよう！

1 **印象**… 経験によって得られた知識(認識内容)

記憶=知識

2 **観念**…印象が時間の経過とともに色あせたもの

つまり、人間の→**観念**の源泉は印象である。例えば、五感のひとつである視覚を使って、庭先に咲いている色鮮やかな真紅のバラを見たとき。すると、「色鮮やかな真紅バラ」が記憶にとどまる。ヒュームは、今さっき見たバラの花をリアルに思い浮かべられる段階を→**印象**という。ところが、一週間経ち、一ヶ月経ち、一年も過ぎると、「ああ、庭先にバラが咲いていたよなあ。何色だっけ。たしか赤だったよなあ」となる。これが、観念の段階。印象も観念もわれわれの→**記憶**(知識)であり、これをヒュームは印象と観念に分けて整理した。

3 道徳論

(1)原理・原則 快=善・幸福

不快=悪・不幸

快を求めることは、善いことであり、幸福なこと。

(積極的な幸福追求)

Pain is inevitable Suffering is optional

不快を避けることも善いことであり、幸福なこと。

(消極的な幸福追求)

不快は悪であり、不幸なこと。

↓

自分にとっての快と他人の快が一致したもの→善・幸福

自分にとっての不快と他人の不快が一致したもの→悪・不幸

↓自分の快・不快と他人の快・不快はどうしたら一致するの？

(2)自分にとっての快・不快と他人の快・不快を一致させるのが→共感。

得点源 ヒュームの、懐疑論を正しく理解しよう！ヒュームと言ったら→懐疑論よ！

・懐疑論…人間の認識は主観的で、普遍性を持たない。知覚された経験以外は疑わしいとする立場。一般的に因果関係とは、理性によって結合された必然的關係と理解されている。例えば：「カエルが鳴くと雨が降る」

↑批判

ヒューム曰く、

ある対象と A とある対象 B が結合して続いておこるのを繰り返し観察すると、ある対象 A とある対象 B との間に必然的な関係があると確信してしまう。

BUT

A と B との関係に見いだせることは、接近と継承のみである。

結合とは、単なる習慣に基づく主観的信念にほかならない。

つまり、

「カエルが鳴く」のに続いて「雨が降る」のは、よく見られる経験的事実である。故に、「カエルが鳴く」という現象と「雨が降る」という現象との間には因果関係があると考えてしまう。因果関係が必然的な関係として存在すると確信してしまうのである。

しかし、ヒュームは因果関係の存在を否定する。「カエルが鳴く」という現象と「雨が降る」という現象の間に因果関係があるように見えるのは、二つの現象が発生する時間的感覚が接近していて、継承（関連）しているからである。しかし、実は、「カエルが鳴く」という現象の後に続いて「雨が降る」という繰り返しを経験したことから、主観的な信念が生じたに過ぎないのである。このように、人間の認識は主観的であり、普遍性をもたないとする立場を→懐疑論という。ヒュームは、人間の心は「知覚の束」にすぎないと論じた。

センター過去問演習

2019 本試 倫理・政経 ベーコンのイドラ

次のア・イは、ベーコンによるイドラについての説明であるが、それぞれ何と呼ばれているか。その組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

ア 人間相互の交わりおよび社会生活から生じる偏見。例えば、人々の間を飛び交う不確かな噂を、事実であると信じ込むこと。

イ 個人の資質や境遇に囚われることから生じる偏見。例えば、自分が食べ損ねた好物を、誰もが好むに違いないと思込むこと。

① ア 種族のイドラ イ 劇場のイドラ

② ア 種族のイドラ イ 洞窟のイドラ

③ ア 市場のイドラ イ 劇場のイドラ

④ ア 市場のイドラ イ 洞窟のイドラ

正解→④

2010 本試 倫理 ベーコンのイドラ

ベーコンが批判した四つのイドラの記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

① 種族のイドラ：人間は、正確な感覚や精神を具えているが、個人的な性格の偏りや思い込みによって、事物の本性を取り違える可能性があるということ。

② 洞窟のイドラ：人間は、種に特有の感覚や精神の歪みを免れ得ないため、人間独自の偏見に囚われて、たやすく事物の本性を誤認してしまうということ。

③ 市場のイドラ：人間は他者との交流の中で人が発した言葉を簡単に信頼しないため、しばしば真実を見失い、不適切な偏見を抱きやすいということ。

④ 劇場のイドラ：人間は、芝居などを真実だと思い込みように、伝統や権威を盲信して、誤った学説や主張を無批判に受け入れてしまいがちだということ。

正解→④

ヒュームの懐疑論

ヒュームの懐疑論の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

① 科学の方法は絶対的な真理を保証するものではないのだから、すべての判断を停止することによって心の平静を保つべきである。

② 最も賢い人間とは、自分自身が無知であることを最もよく知っている人間なのだから、自己の知を疑うよう心がけるべきである。

③ 帰納法から導かれる因果関係は、観念の習慣的な連合によって生じたのだから、単なる信念にすぎないことを認識すべきである。

④ 人間はたえず真理を探究する過程にある以上、真理は相対的なものでありしかあり得ないので、つねに物事を疑い続けるべきである。

正解→③

2017 本試 倫理・政経 経験論

経験に関して次のア～ウは、経験に知識の源泉を求めた思想家の説明であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを下の①～④のうちから一つ選べ。

ア 事物が存在するのは、私たちが知覚する限りにおいてであり、心の外に物質的世界などは実在しないと考え、「存在するとは知覚されることである」と述べた。

イ 私たちは生まれつき一定の観念がそなわっているという見方を否定し、心のもとの状態を白紙に譬えつつ、あらゆる観念は経験に基づき後天的に形成されるとした。

ウ 因果関係が必然的に成り立っているとする考え方を疑問視し、原因と結果の結びつきは、むしろ習慣的な連想や想像力に由来する信念にほかならないと主張した。

Pain is inevitable Suffering is optional

- ① ア ヒューム イ ベーコン ウ バークリー
- ② ア ヒューム イ ベーコン ウ ロック
- ③ ア ヒューム イ ロック ウ バークリー
- ④ ア ヒューム イ ロック ウ ベーコン
- ⑤ ア バークリー イ ベーコン ウ ヒューム
- ⑥ ア バークリー イ ベーコン ウ ロック
- ⑦ ア バークリー イ ロック ウ ヒューム
- ⑧ ア バークリー イ ロック ウ ベーコン

正解→⑦

ア→バークリーについての記述。バークリーによると、知覚されない存在というものは考えることもできないので、心の中で捉えられた事物と区別される外的な事物については否定した。

イ→ロックについての記述。ロックは、誰もが生まれながらに持つ生得観念という概念を大陸合理論の哲学者たちが前提していたのに対し、人間の心はもともと何も書かれていない「タブラ・ラサ(白紙)」の状態にあると論じた。

ウ ヒュームについての記述。原因と結果における必然的つながりは経験によって認識できるものではないことから、ヒュームは因果性の観念は客観的なものではなく、習慣によって形成された信念にすぎないと論じた。